



SRI研修の実績



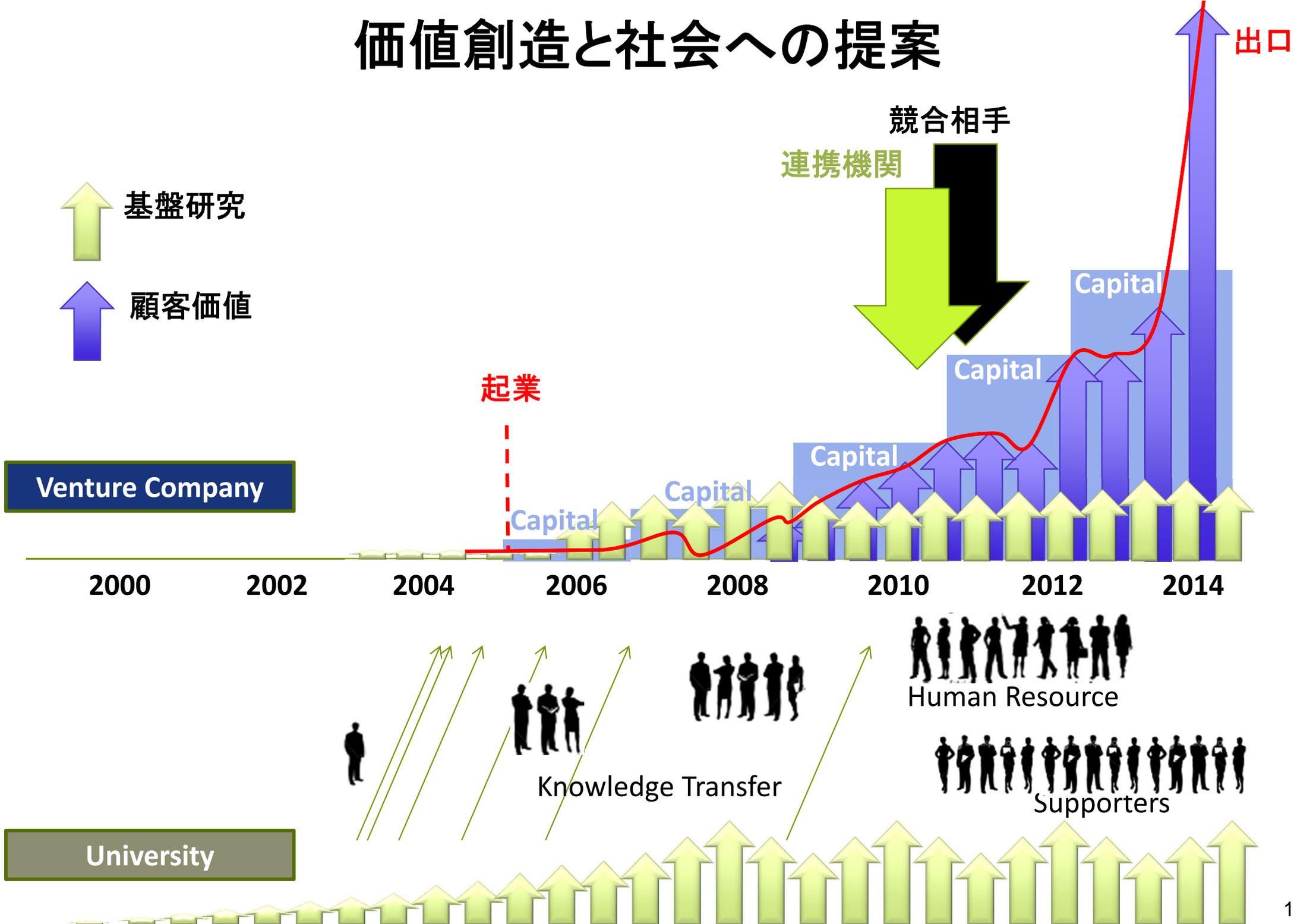
イノベーションリーダーワークショップ in シリコンバレー



No.	年月日	実施場所	事業名	学生	ポスドク	教職員 (重複有)	その他 (企業関係者等)	計	備考
1	2009年1月16日	東京農工大学	アグロイノベーション	56	1	19	18	94	SRI特別講演会
2	2009年3月23日～25日	東京農工大学	アグロイノベーション	10	0	2	0	12	
3	2009年12月8日～10日	SRI本部	アグロイノベーション	12	2	3		17	
4	2010年12月13日～15日	SRI本部	アグロイノベーション	6	6	13		25	イノベ機構と合同
5	2011年5月17日	東京農工大学	イノベーション推進機構	22	0		0	22	
6	2012年11月26日～27日	SRI本部	イノベーション推進機構	10	0	13	0	23	
7	2012年3月26日～27日	SRI本部	URA事業	0	0	11	4	15	
8	2013年4月15日～16日	仙台	リーディング大学院・イノベ機構	14	0	24	0	38	
9	2013年11月6日～7日	SRI本部	リーディング大学院・イノベ機構	7	0	14	0	21	
10	2014年3月17日～18日	SRI本部	リーディング大学院・イノベ機構	20	0	5	0	25	
11	2014年11月12日～17日	SRI本部	リーディング大学院・イノベ機構	21	0	7		28	
12	2015年3月4日～3月9日	SRI本部	EDGE	11	0	6	5	22	
	合計			189	9	117	27	342	

※2015年12月、2016年2月にもそれぞれ20名規模のSRI研修実施を予定。

価値創造と社会への提案



アントレプレナーの育成

大学発ベンチャーの成功モデルを構築

そーせいグループはペプチド合成の新技術を有する東京農工大学発ベンチャー、JITSUBOを買収、ペプチド医薬品領域に参入 (2014年12月日経)。



JITSUBOは、最新の有機合成技術「Molecular Hving」によるペプチド化合物開発におけるグローバルスタンダードを目指します。

東京農工大発ベンチャー Napa Jen
革新機構、骨髄移植用新薬ベンチャーに出資 9億円
2014/2/2 0:22 | 日本経済新聞 電子版



官民ファンドの産業革新機構は骨髄移植の安全性を高められる新薬を開発するベンチャー企業に約9億円を投資する。骨髄移植が必要な白血病の治療で、副作用のあるステロイド剤を使わなくていいようにする。2020年ごろの実用化を目指し、開発の進展に応じて追加投資も検討する。

2015年11月SRI研修(於・Menlo Park)
実践的なビジネスプラン策定

2015年9月Steinbeis研修(於・Stuttgart)
MBEコースの一部を履修

2015年8月Steinbeis研修(於・農工大)
MBEコースの一部を履修

2015年6月リスボン研修(於・Lisbon)
日本国大使、ポルトガル国副大臣等出席予定
トマトペースト生産加工ビジネスワークショップ(協賛:カゴメ)

2015年5月エコシステムフォーラム(於・大仁)
英語環境でビジネスプランワークショップを実施
招聘者:アンカラ大学、リスボン大学、コーネル大学、ラモリーナ大学、チャピ
ンゴ大学、他

2015年3月Steinbeis研修(於・農工大)
MBEコースの一部を履修

2015年3月SRI研修(於・Menlo Park)
実践的なビジネスプラン策定

2015年2月台北研修(於・New Taipei)
実践的なビジネスプラン策定

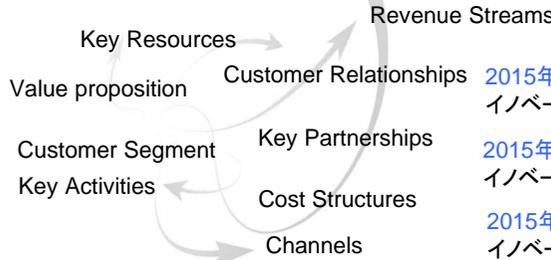
WON the FIRST PRIZE (MIT-EFJ Prize)



11th MIT-EFJ Business Plan Contest
19th Nov. 2011

国際機関連携に基づく
研修プログラムを推進

シンクタンク機能の
強化



産学協働によるビジネス展開

UAEに節水節電型水耕栽培システムを導入



フィリピンにおける科学者育成教育事業

LC-MS用脱塩インターフェースの製造販売

ナツメヤシ(デーツ)の高度利用事業

砂漠地帯における大規模農業生産事業

ネパール観光事業、食品販売事業の展開

タマゴ製品の世界展開事業

ハラール対応食品の海外展開

ビジネスを基軸とした
国際機関連携を推進

CIMMYTと包括連携協定へ



(株)東京農工大学総合研究所設置

基金体制の強化

5年一貫制博士課程大学院

食料エネルギーシステム科学専攻

大学院教育課程
として定着

SRI International 5DO1

Steinbeis Univ. Certification
in MBE program

- | | | | | | | | | | |
|---------------|-----------------|--------------|----------------|---------------|-----------------|------------|------|------|-----------|
| ラモリーナ大学(ペルー) | 上智大学 | 宇都宮大学 | 弘前大学 | 岩手大学 | 帯広畜産大学 | 山形大学 | 茨城大学 | ICU | ボン大学(ドイツ) |
| CIMMYT(メキシコ) | 静岡大学 | 岐阜大学 | 鳥取大学 | 島根大学 | 山口大学 | 鹿児島大学 | 佐賀大学 | 琉球大学 | |
| リスボン大学(ポルトガル) | UAE大学(アラブ首長国連邦) | アンカラ大学(トルコ) | フィリピン大学(フィリピン) | チャピンゴ大学(メキシコ) | シュタインバイス大学(ドイツ) | 国立交通大学(台湾) | | | |
| | UC Dais(アメリカ) | コーネル大学(アメリカ) | | | | | | | |

まとめ①

【競争的研究費と運営費交付金】

- 補助金事業を起爆剤として、大学で動機付けをして運営費交付金の事業として波及又は同時進行で事業を推進（TT、女性）

【競争的研究費の直接経費とその間接経費】

- イノベ若手では間接経費があることで、学内の事業申請部局だけではなく、他部局を含む全学事業として実施できると共に、他機関などにも波及させる事業として実施を可能にする動機付けができた

【運営費交付金と間接経費】

- 農工大では、間接経費の措置がある場合、運営費交付金で外部資金獲得奨励金を申請代表者に給付する制度を創設し、社会のニーズを踏まえた競争的研究費などに積極的に申請・獲得を目指すマインドを醸成した

まとめ②

【大学改革への経費の複合的な活用】

- 大学改革で重要な教職員の意識改革やイノベーションマインド醸成、大学運営(経営)マインドセットが最も重要。そのための動機付けや学長を中心とした学内の意識統一、他機関等への波及は運営費交付金、競争的研究費の直接経費と間接経費の支援バランスが大変重要。全競争的経費に間接経費が必要不可欠
- 産学連携において、産学連携のセンター運営やベンチャー支援、知財管理は間接経費が大変重要。産学連携における大学の自立的事業展開は、間接経費などの経費を活用するエコシステムが重要
- 農工大は産学連携、イノベーション人材養成及び人事制度改革において、運営費交付金と競争的研究費の直接経費、間接経費を上手に活用して大学改革を推進できた。



以下、参考資料



人材養成機能の強化

起業実践イノベーションリーダー育成プログラム

大学の世界展開力強化事業

頭脳循環若手研究者
海外派遣プログラム

実践型研究リーダー育成事業
(S評価/中間評価)

戦略的環境リーダー育成拠点形成事業
(A評価/中間評価)

女性研究者支援モデル育成事業
(A評価)

イノベーション創出若手研究人材養成事業
(S評価)

若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業
(S評価)

キャリアパス多様化促進事業
(A評価)

派遣型高度人材育成協同プラン
(S評価)

連携機関拡大

共同研究と人材育成の連動

多様なキャリア開発
メンター制度

全国大学院教育連携の拡充

多地点制御遠隔講義システム(全国18大学連携)

学生の海外研修
インターンシップ

全国のD,PDを対象とした
長期インターンシップ

教員のイノベーション長期海外研修

事務職員の意識改革、長期海外研修

教員の意識改革(他大学も含め全国規模に展開)

リーディング
プログラム

イノベーション人材育成活動の進展

H17

H18

H19

H20

H21

H22

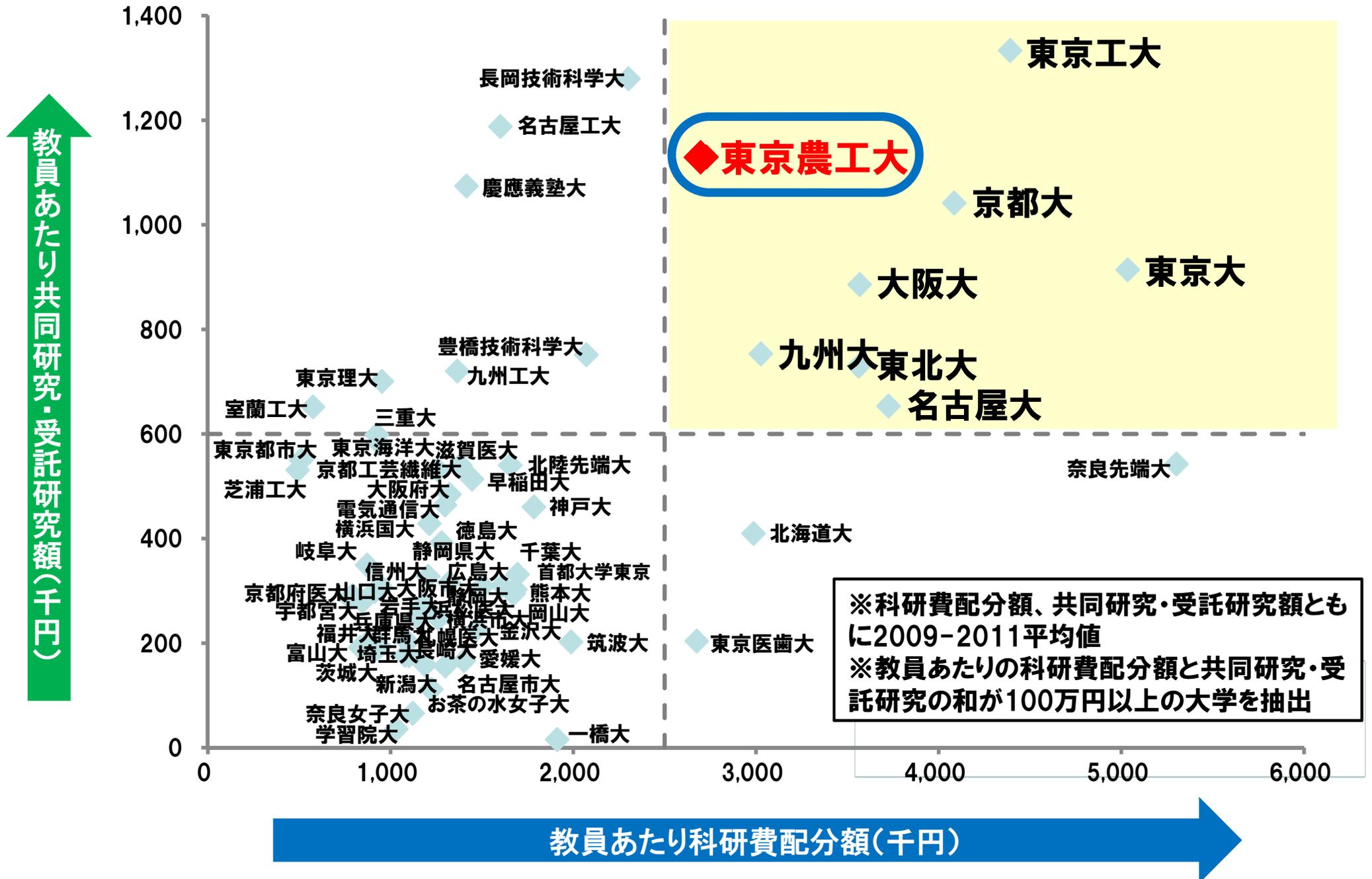
H23

H24

H25

H26

科研費と産学連携導入資金



機能強化に向けた取組

国際理系グローバルイノベーション人材を養成する「世界水準の教育研究の展開拠点」に向けて

世界水準の教育研究の展開拠点

【農工融合分野における教育力・研究力の推進＋国際通用性の確保】

組織改革・人事制度改革

【教員の質向上】

① グローバルイノベーション研究院(仮称)
の創設(世界トップレベル研究拠点の創設)

② 人事制度改革
(平成27年1月1日年俸制導入)

③ サバティカル制度
(国際研究ネットワークの構築)

【教員の質保証】

④ 教員評価機構
(適正な教員の業績評価制度の構築)

学長の
リーダーシップの下、
総合的・戦略的に
各取組を推進

波及・相乗
効果

グローバル教育制度の創設

【教育の質向上】

⑤ 9年一貫のグローバル教育プログラム
(積極的海外参加型教育プログラムの導入)

⑥ 国際的なダブルディグリー
UCデータベースとのDD協定締結

(カリキュラムの国際的な質保証・向上)

⑦ 早期修了制度
(優秀な人材の早期輩出制度の構築)

【教育の質保証】

⑧ 学位審査機構の設置
(学位の対外的質保証制度の構築)

「世界水準の教育研究活動の飛躍的充実」に資する取組として選定(全12大学)

国際理系グローバルイノベーション人材養成(教員・学生)を加速

国際共同研究及び国際共著論文の倍増 目標:世界大学ランキング100位以内へ

研究特区「グローバルイノベーション研究院」の設置

3つの重点分野に戦略的研究チームを結成
各チームに世界第一線で活躍する
外国人スーパー教授を雇用

重点分野①: 食料

食料生産効率、食料管理

食糧科学

動物科学

環境科学

タンパク合成

食料分野 戦略的研究チーム



平澤正教授
Rowan F. Sage教授 Univ.
of Toronto カナダ



高橋信弘教授
Richard Simpson教授
La Trobe Univ. オーストラリア



畠山史郎教授
Neng-Huei LIN教授
National Central Univ. 台湾

重点分野②: エネルギー

エネルギー制御、エネルギー効率化

バイオエネルギー

LED

イオン液体

キャパシタ

エネルギー分野 戦略的研究チーム



大野弘幸教授
Bruno Scrosati教授 Univ.
of Rome イタリア



熊谷義直教授
Bo Monemar教授
Linköping Univ. スウェーデン



直井勝彦教授
Patrice Simon教授
Paul Sabatier Univ. フランス

重点分野③: ライフサイエンス

基礎生化学、基礎分析化学

生体分子

分子生物学

生命科学

有機合成

ライフサイエンス分野 戦略的研究チーム



稲田全規准教授
Carlos Lopez-Otin教授
Univ. of Oviedo スペイン



千葉一裕教授
Esko Kauppinen教授
Aalt Univ. フィンランド



田中剛教授
Chris Bowler教授
Institut de Biologie de l'Ecole
Normale Supérieure
フランス

目標: 世界大学ランキング100位内へ



《ミッション》

国際共同研究
国際共著論文

} 倍増